

4-7

介護の必要性を認識できないことにより、虐待の状態を招いた家族への対応

介護放棄

在宅支援

品川区荏原在宅介護支援センター

介護支援専門員 尾形 清貴

東京都品川区荏原2-9-6

03-5750-3704

ebara.shien01@ar.wakwak.com

03-5750-3695

http://www.santokukai-ebara.or.jp

今回の発表の施設
またはサービスの
概要

荏原在宅介護支援センターは品川区の西部に位置し、特別養護老人ホーム、ショートステイ、デイサービス、保健所が併設されています。保健・医療・福祉と連携を図り、「その人らしさ」を大切にしています。

〈取り組んだ課題〉

- ・ 介護者の介護放棄により数日間食事ができず、生命の危機に陥ってしまった。
- ・ 自宅はごみであふれ扉は閉まらず、床は抜け落ちるなど生活環境は劣悪で、トイレは数年前より使用不能のため、近所の公園のトイレを利用していた。
- ・ 介護者（息子）は統合失調症を患っており、外部の人間を受け入れられなかった

〈具体的な取り組み〉

- ・ 本人は衰弱していたため、検査入院となった。検査の結果様々な病気がみつかり、手術をおこなった。
- ・ アセスメントをおこない、本人の希望を伺った結果、できる限り住み慣れた自宅で暮らしたいとの希望があったため、生活環境を整備（大掃除・トイレ修理など）した。
- ・ 食の確保が困難なため、介護保険を申請し、ヘルパーに食材を買ってきてもらう。
- ・ 介護者に毎日ヘルパーが食事の確保のためケアに入ることを説明する。しかし介護者はヘルパーを全く受け入れず、再度生命の危機に陥ってしまったため、本人の安全の確保としてショートステイを利用した。その後虐待ケースとして対応することになり、ショートステイから特養一時入所に切り替えた。
- ・ 上記のことから介護者との同居は困難となり、施設入所（特養・養護）の申込みをした。
- ・ 介護者への対応として精神科医に訪問してもらい、診察の結果、現状（統合失調症で未治療の状態）では在宅生活は困難で、医療保護入院となった。

〈活動の成果と評価〉

- ・ 人工股関節置換術の手術により歩行できるようになり、近所であれば外出できるようになった。
- ・ 近隣住民、民生委員、区の協力により、生活できる環境が整った。
- ・ 介護保険を申請したことにより、様々なサービス機関が関わるようになり、本人の状況を詳しく把握できるようになった。
- ・ 緊急ショートステイの利用により、本人の安全が確保された。その後特養一時入所に切り替わったが、その間に息子を医療保護入院させることができ、適切な治療につなげることができた。
- ・ 息子の入院後本人は在宅復帰できたが、冬になると家の老朽化により、室内でも屋外と変わらないくらい寒くなり、とても暮らせる状態ではなかった。そこへちょうど養護老人ホームに空きができ、入所することができた。
- ・ 養護老人ホームへの入所により、安全で安定した生活をおくれている。
- ・ 介護者は入院治療により症状の改善がみられ、現在は更正施設にて自立に向けた訓練をおこなえるようになった。

〈今後の課題〉

- ・ 本人は養護老人ホーム、介護者は更正施設に入所できたが、家族が分断されてしまい、本人も介護者も在宅で一緒に暮らすことを希望している。また本人も介護者も介護に対する認識がなかったため、結果的に介護放棄となってしまったが、地域の力を活用することにより、問題を早期発見することが大切である。